



横浜市立桂小学校

桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

7月号

令和2年6月29日

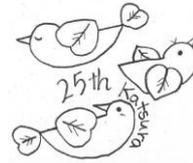
Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活についてはHPをご覧ください。

E-mail: y3katura@edu.city.yokohama.jp 桂小学校HPのQRコードはこちら→



白い太陽と赤い町



校長 寺澤 みゆき

今回は、身近な2人の人と私の会話を書きたいと思います。

◆一つ目はある小学生と私の会話。

「幼稚園のお絵かきは嫌いだった。」「どうして?」「だって、絵を描いているとね、みんなが『太陽は?ふつう太陽を描くよ』っていうから、描いたらみんな『へん!』っていうし。先生もね、赤いクレヨンをもってきて『これで塗ってね』っていうし。嫌いだった!」「何が変なのかなあ。」「太陽って白いよね!だから白でかいたのに、『へん』『へん!』『赤だよ!』ってみんな言うし。変なのはみんなや先生だよね!」(窓から外を見て)「あ!本当だ!太陽って白いね!」「うん!太陽は白いよね!!」

◆二つ目は、先輩の先生と私の会話。

「私が小学生の時、街の風景を描く授業があったのね。図工の時間に学校の外に出て、好きな場所や構図がいいと思うところを選んで建物や街並みを描く、ってことをしたの。私は絵が好きだったから楽しくて。出来上がった絵を先生に提出して家に帰ったの。」「楽しく描かれた絵でしたらきっと素敵な絵だったのでしょうね。」「それがね。」「何かあったのですか?」「家に帰ったら、父が、『〇〇、今日は町の絵を描いたんだって。』って言うの。どうして知ってるんだろう、って不思議に思ったら、先生からさっき電話があった、って。『先生が、〇〇の描いた絵が真っ赤に塗られていた、って言ってたよ。どうして赤く塗ったんだい?』と聞かれたのよ。私は、『夕焼けの時を思い出して、この風景が夕焼けだったらもっと素敵だな、と思ったから塗ったの。』と、私は父に答えたの。父は、『夕焼けの町は素敵だもんなあ。』と言ってくれた。後から聞いたのだけど、先生は私の視覚や心の状態の心配をしてくれて、電話をかけてきたんですって。今思うと、あの時、父が、赤に塗った絵を認めてくれたから、私は今も絵が好きでいると思うのね。」

2つの話は、「絵の描き方」ととらえてしまうと逆のことと考えてしまいます。しかし、子どもの考えや行動に大人がどういう姿勢で関わるかという視点で見直すと、共通するものが見えてきます。

ちなみに、この小学生も、先輩の先生も、豊かな発想と表現力が生まれ、かいたり作ったりすることが今でも大好きです。

子どもの行動には、必ず自分なりの意味や理由があります。頭ごなしに否定したり、指導したりせず、きちんと受け止め認める、そのステップを挟むことで、子どもの自己肯定感が育まれていきます。

長い休業と分散登校の期間、保護者の皆様はお子様と一緒に過ごす時間が増えたことと思います。その時間は、お子様について改めて知る、貴重なものとなったことでしょう。

保護者の皆様、お子様のことを私たち教師と共有し、子どもの考えや行動をどうとらえ、どんな言葉をかけるのがよりよいのか、一緒に考え実践していただけますようお願いいたします。

地域の皆様、登下校や放課後の子どもの安全・マナーについてご指導いただき感謝いたします。桂小学校の子どもは、あいさつや雨天の歩行等のマナーが、少しずつではありますが向上しているように感じております。

今後とも地域の子どもとして、共に育て見守ってくださいますよう、お願い申し上げます。